

チェロ公開レッスン Cello Masterclass

ルイス・クラレット

Lluis Claret



PROGRAM

<公開レッスン Masterclass>

■藤田 文護 Bungo Fujita (付属高校 1 年)

Dvořák : Concerto mov.1

■小原 彩美 Ami Kohara (学部 3 年)

Brahms: Sonata No.1 mov.1

■吉田 真莉愛 Maria Yoshida (学部 4 年)

Hindemith: Sonata for cello

通訳 柿沼 麗子

2025 年度 特別招聘演奏家シリーズ

2025. 6/17 (火)

17:30~

東京音楽大学
池袋キャンパス

J スタジオ

カタロニア出身の両親がフランコ將軍の独裁に反旗を翻し亡命した地、アンドラで 1951 年に生まれる。

両親と親交が深いパブロ・カザルスが名付け親となる。そのカザルスの影響でチェロを始め、リセウの音楽院を優等で卒業した後、フランス、イタリア、アメリカで研鑽を積む。その間、モーリス・ジャンドロンらから指導を受けるほか、エンリック・カザルス（パブロ・カザルスの弟）から徹底した音楽教育を受ける。また、ジョルジ・セボック、バーナード・グリーンハウスからも多大な影響を受ける。

ボローニャ国際コンクール（75 年）、カザルス国際コンクール（76 年）、ロストロポーヴィチ国際コンクール（77 年）に優勝し、世界を舞台に活躍を始める。

これまで、ブルーーズ、ミュンヒンガー、ノイマン、ロストロポーヴィチら巨匠の指揮で、ワシントン・ナショナル管、モスクワ・フィル、フランス国立管、イギリス室内管、チェコ・フィルなど世界各地のメジャー・オーケストラと共演する。

バルセロナ五輪の閉会式では、カタロニアを代表する音楽家として、ソプラノのビクトリア・デ・ロス・アンヘレスと共にカタルーニャ民謡『鳥の歌』を演奏する。室内楽にも力を注いでおり、ベルリン・トリオのメンバーとして活躍するほか、著名演奏家と共演を重ねている。レパートリーは幅広く、現代作曲家（デュティユー、ルトスワフスキ、ブルーーズ、クセナキス等）からの献呈された作品の初演も多い。

ソロ、室内楽、協奏曲の CD が数多くリリースされている。演奏活動に加え、国際コンクールの審査員、音楽祭の監督など幅広い活動を展開している。現在、ニューイングランド音楽院教授。

入場無料 ・ お申し込み不要

お問い合わせ先：国際交流センター
study_abroad@tokyo-ondai.ac.jp